

社会的アイデンティティの鏡映的所属認知と社会的 魅力の関係

氏名 永井菜月

人に対する好きや嫌いといった態度のことを社会心理学では対人魅力と呼ぶ。その中には社会的魅力というものがあり、特定の集団メンバーによって具体的に表現された集団の魅力を指す。社会的魅力を規定しているのが社会的アイデンティティで、これはある社会集団のメンバーであるという知識によって生じ、そのメンバーであることに価値や情動の重要性が付着する自己概念の一部である。神は「社会的アイデンティティが自覚的所属認知ではなく、鏡映的所属認知によって左右される」という仮説を立て、調査を行った。自覚的所属認知は「私は〇〇の一員である」という所属認知で、鏡映的所属認知は「周囲は私を〇〇の一員だと見なしている」という所属認知である。結果は予測通りであった。以上の先行研究を受け、鏡映的所属認知が強い人は同じ集団に所属する仲間の社会的魅力を高く見積もるのではないかと予測を立てた。予測を検証するため大東文化大学の運動部に所属している学生に質問紙調査を行い、これに対する回答を単回帰分析と媒介分析を通して検討した。結果から、鏡映的所属認知が強い人は同じ集団に所属する仲間の社会的魅力を高く見積もることが判明した。これにより社会的魅力を規定しているという鏡映的所属認知の役割の1つが明らかになった。以上のことから、本研究は先行研究であまり明らかにされてこなかった「鏡映的所属認知の役割」の一部を明らかにしたと言える。